取扱説明書

T3.5

Company Name:　HAIGE　Industry Co., Ltd
Company Address:〒370-0614 群馬県邑楽郡邑楽町赤堀 2656
☎0276-89-8605

ハイガー2ストローク船外機をお買い上げいただき誠に有難うございます。

この取扱説明書は、お買い上げいただいた船外機を安全に正しく操作する手助けとして編集されたものです。船外機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、船外機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　録

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
出航する前に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

運搬のしかた・・・

安全にお使いいただくために

警告

あなたと他の人の安全を守るために、つぎの指示に従ってください。

★船外機について

- エンジン出力に適応するボートを選定してください。また、船外機が正しく搭載されているか確認してください。
- 他の人に船外機を運転させる場合は適切な指示をしてください。
- ガード、ラベル、カバーなどの安全装置を取外さないでください。これらのものはあなたの安全のために取付けられています。
- 船外機を改造しないでください。
- 非常時に備えてエンジンをすばやく停止させる方法を理解してください。
- 航走中は非常停止スイッチのコード(カール　コード)を運転者の身体の一部に必ずつけてください。
- 幼児や子供が運転の妨げにならないように注意してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。ガレージやボート　ハウスなど換気の悪い所ではエンジンを始動しないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは、エンジンを停止して換気のよい場所で行ってください。
- 燃料を補給しているときや、燃料タンクの付近では、たばこを吸ったり炎や火花を近づけないでください。
- 燃料タンクには燃料を入れ過ぎないでください。また、補給後、燃料給油キャップが正しく、しっかりと締まっているか確認してください。
- 燃料を補給するときはこぼさないように注意してください。こぼれた燃料や気化した燃料に引火することがあります。

これだけはぜひ守りましょう

警告

★出航する前に

艇の出航および操船時には、オーナー(船長)は、艇の点検、天候、海況の判断、安全の確保に対して、適切な対応が出来るよう常に心がけてください。

このようなとき、出航はやめましょう。

- 天気予報で、強風注意報、または警報が発令されているとき。
- 日本の沖合に台風があるとき。

上記のようなとき、たとえ港内は静かでも出口付近では潮流などと相まって思わぬ高波になっていることがあります。

天気予報を確認しましょう。

海の気象は変わりやすいものです。常に天気予報を確認して、天気が悪くなりそうなときは、出航しない、寄港することを守ってください。

天気予報を知る代表的な方法

- 新聞の天気予報、ラジオ・テレビの天気予報
- 電話の天気予報：ダイヤル177(航行水域に当たる地方の市外局番＋177)
- 地方気象台、漁業組合、マリーナへの問い合わせ
- 空を観測し天気を予想すること

航行計画をマリーナ、身内または友人に知らせましょう

- むりやりな計画は立てない
- 夜間航行はできるだけ避ける
- できるだけ二隻以上のグループで行動する
- 行動水域の状況を調べておく
- 天気が悪くなった場合の避難港を選んでおく
- 船舶安全規則で定められた法定備品等の確認をする
- 携帯電話を防水パックに入れて携行する
- 定員をオーバーして乗せない

乗員と積荷に気をくばりましょう

- 乗員や積荷はバランスよく配置する

出航前各部作動点検を徹底しましょう。

帰航後の点検を実施しましょう。

警告

★船の安全とルール

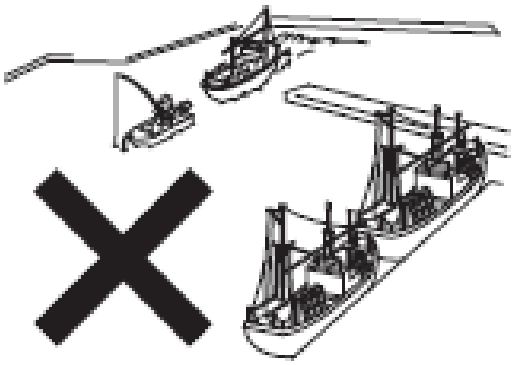
●見張りを励行しましょう。

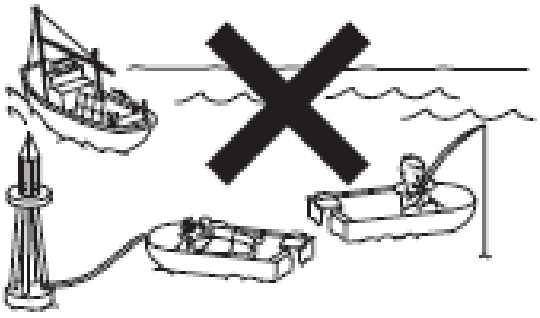
- 航行中、漂泊中、錨泊中を問わず周囲の見張りを行いましょう。
- 漂流物や藻など、また、衝突のおそれのある船が近づいていないか確認しましょう。
- 船位を把握し、船の性能を考慮して岸から離れすぎないようにしましょう。
- 潮流や波の激しくなる水域には入らないようにしましょう。

●船の法律や規則を守りましょう。

- 船外機を運転する前に、ボートの航走に関する全ての法律や規則を熟知し、正しい運転を行ってください。
- 海上衝突防止法、海上交通安全法、港則法などのルールを守ってください。
- ボートに乗る人は必ずライフ　ジャケットを着用してください。

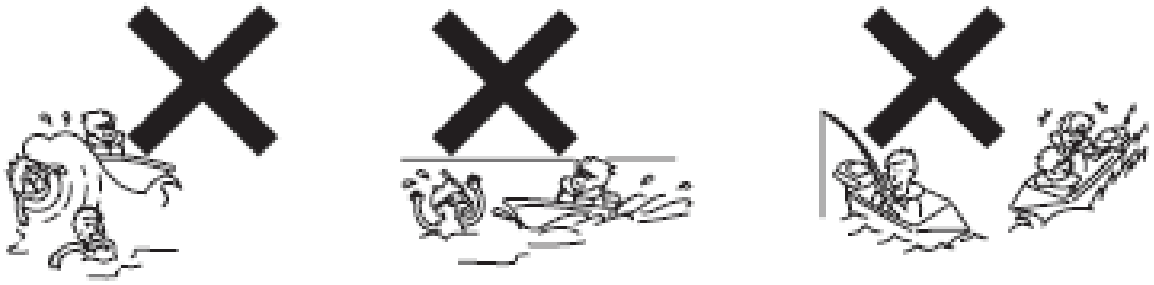
- 航路内、狭水道で錨泊、漂泊や浮標への係留はしないようにしてください。





警告

- 遊泳中の人がいる場所では、運転しないでください。
- 海水浴場やダイビング、釣りをしている人に近づかないでください。

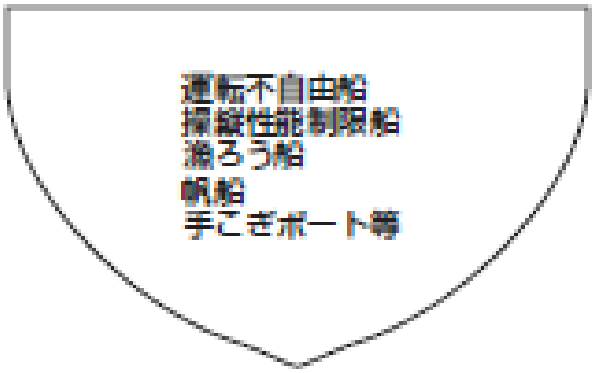


- 漁ろう中の漁船、定置網、養殖場に近づかないでください。

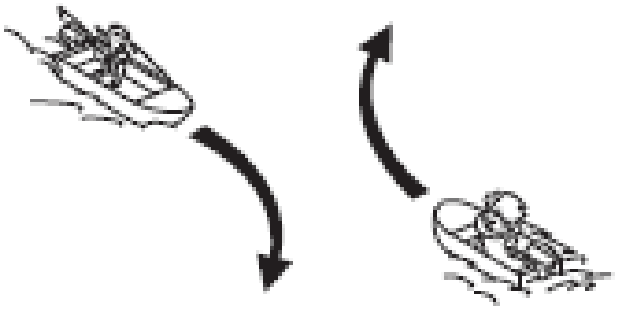
- 法律や条例などで航行が禁止されている水域や工事、作業が行われている区域に入らないでください。
- 酒を飲んでの運転や薬物を服用して船を運転しないでください。判断力がにぶり重大な事故を引き起こすことがあります。
- 衝突を避けるための針路または速力の変更は、十分余裕を持ち他船が容易に確認できるように大幅に行いましょう。

警告

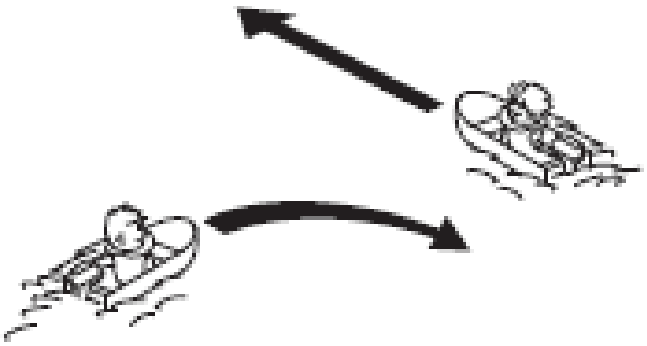
・運転不自由船、操縦性能制限船、漁ろう船、帆船、手こぎボート等の針路をさまたげないようにしましょう。



・行き会い船



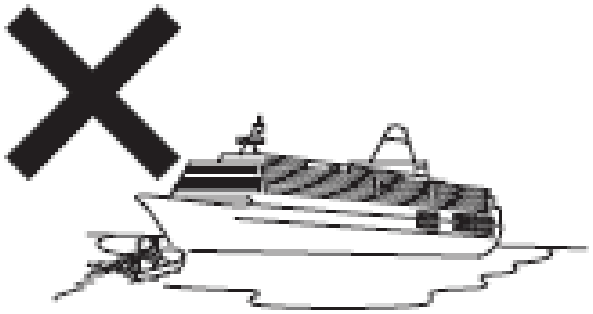
・横切り船



警告

・追い越し船

・大型船は死角が大きいため近づかないようにしましょう。



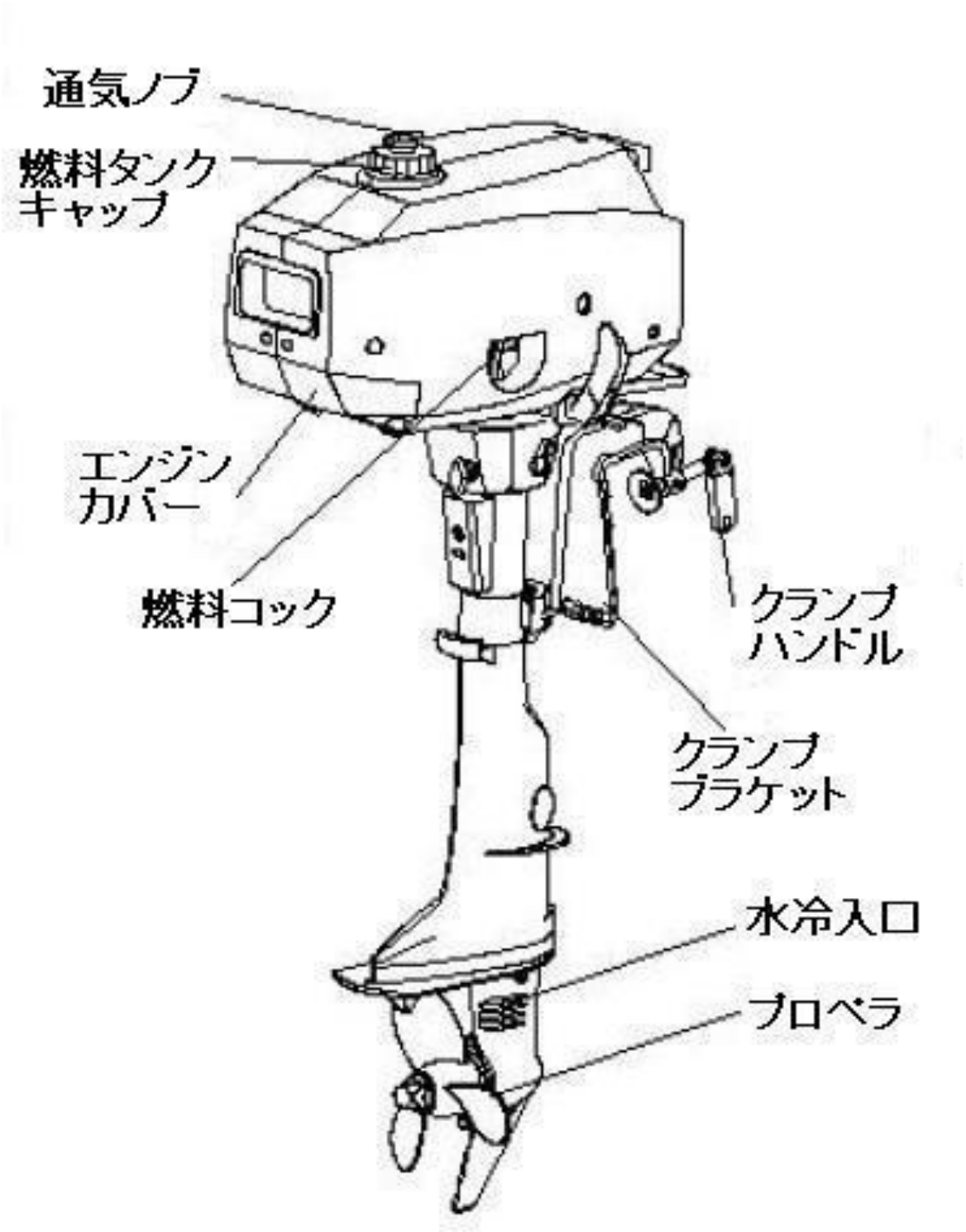
●もしものときは

・乗員や他の人が水中に落ちたときは、直ちにエンジンを停止し救助してください。

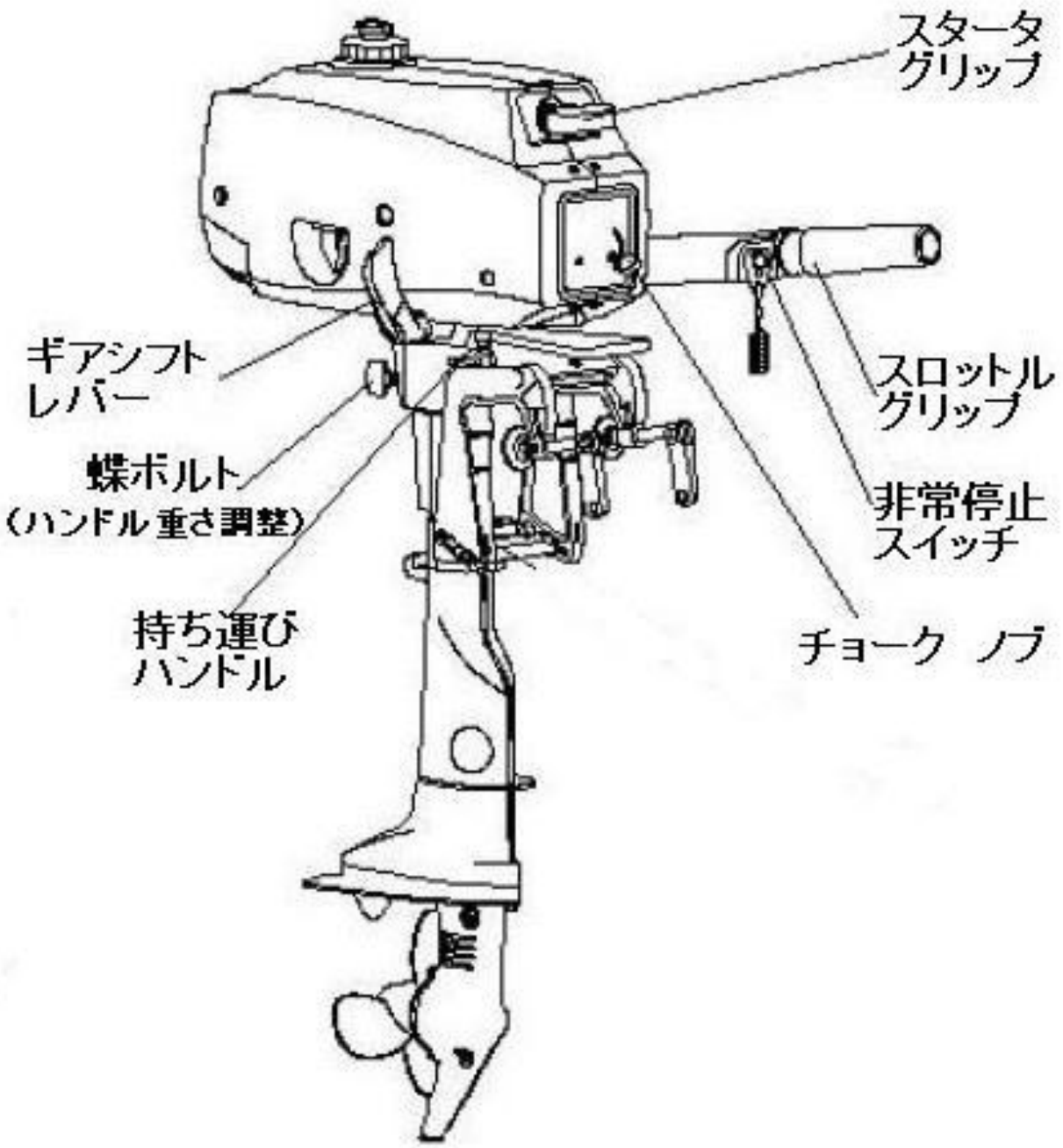
・海上における事件・事故の緊急通報用電話番号としてダイヤル118番が開設されています、事故または故障などにより救援が必要となったとき、携帯電話、PHSなどから海上保安庁へ連絡できます。

・救助合図は両腕を広げ上下に振ります。

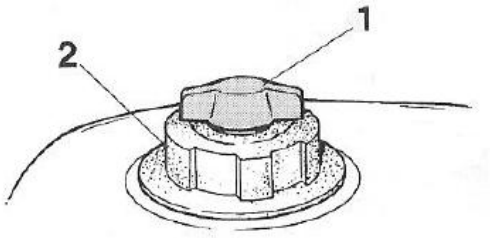
各 部 の 名 称 を お ぼ え ま し ょ う



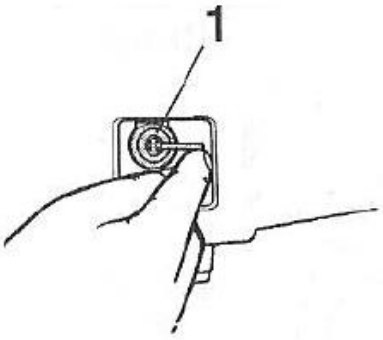
各 部 の 名 称 を お ぼ え ま し ょ う



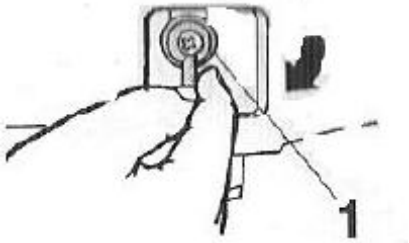
各 部 の 名 称 を お ぼ え ま し ょ う



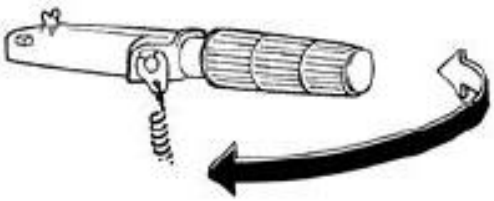
1. 通気ノブ
2. 燃料タンクキャップ
   両方とも締め方向は時計回り方向です。



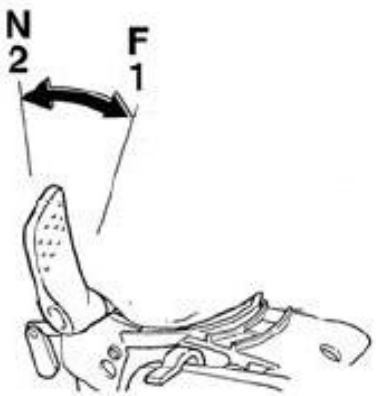
1. 燃料コック閉め位置：（CLOSE）
   燃料がエンジンへの流れ込みを止めます。船外機を使用しないときは、コックを CLOSE 位置にする。



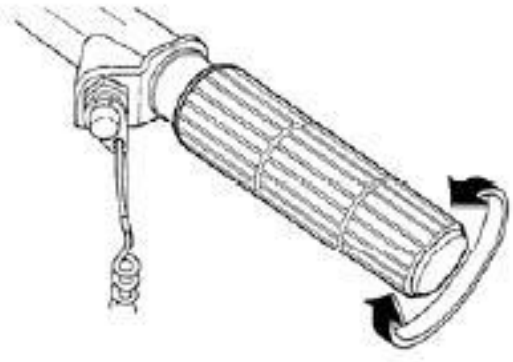
1. 燃料コック開け位置：（OPEN）
   燃料がキャブレターへの流れ込みを開けます。船外機を使用するときは、コックを OPEN 位置にする。



ティラー　ハンドル：
ボートの前進方向をコントロールするには、ティラー　ハンドルを右、または左へ回して下さい。



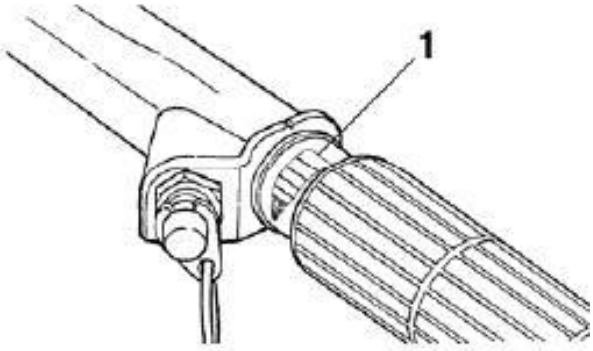
ギアシフト　レバー
1．F 位置：ギア前進位置、ボート動き出す
2．N 位置：ギア空回り位置、ボート動かず
最初に N 位置にすれば、急な動き出しが避けられます。



スロットル　グリップ

時計回り:減速する

反時計回り:加速する

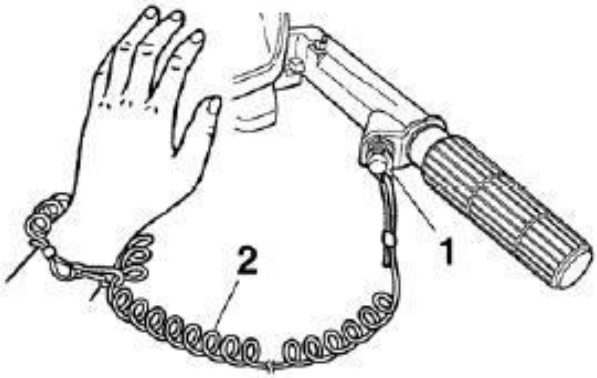


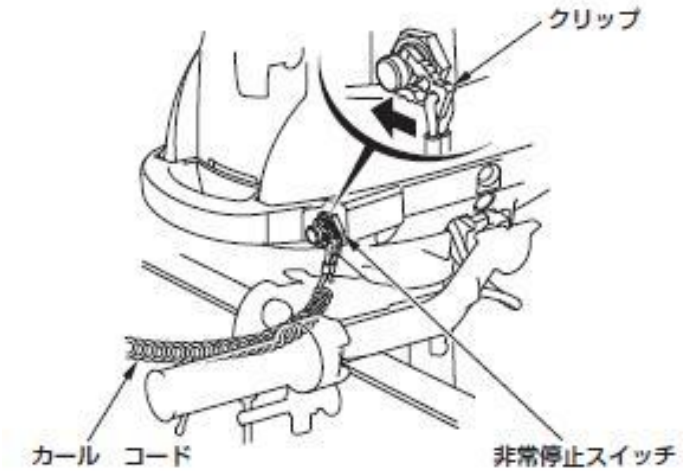
スロットル　表示ラベル

燃料消費を考えながら、最適な前進スピードを調整してください。

警告！

スロットルの締めすぎに十分ご注意ください、締めすぎはスロットルが利かなくなる恐れがあるので、くれぐれにご注意ください。





非常停止スイッチ

1. クリップ

2. カール　コード

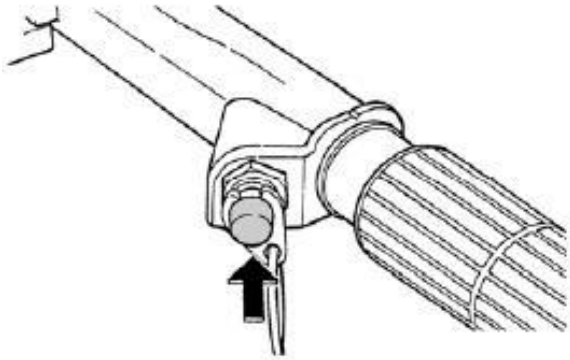
運転者が万一水中に落ちたり、操作位置から離れたとき、自動的にエンジンを停止させる装置です。

クリップがスイッチから引き抜かれると、エンジンは停止します。

運転中は、カール　コードを運転者の身体の一部にしっかりと取り付けておいてください。

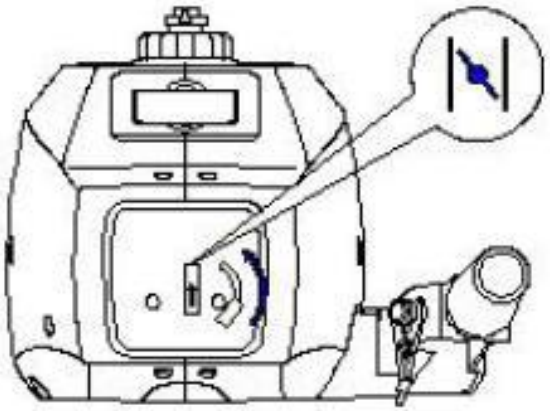
・クリップがスイッチに取り付けられていないとエンジンは始動しません。

・クリップを紛失しないようご注意ください。



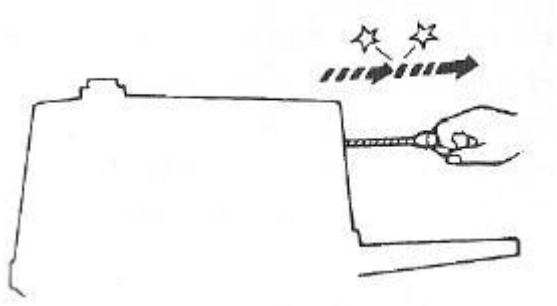
エンジン　ストップ　ボタン

エンジンを通常ストップするときは、このボタンを押してください。



チョーク　ノブ

エンジンが冷えているときは、ノブを反時計回りし、キャブレターへ流れ込む燃料を増加しまあす。

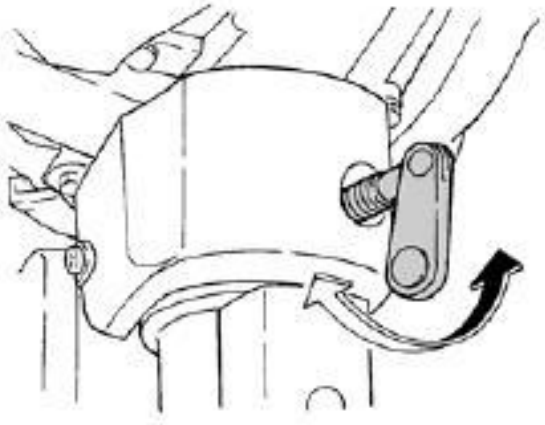


エンジンをスタートする

・まず始動グリップを軽く引き、重くと感じたところで一旦止め。始動グリップを一度戻してグリップを勢いよく引くとエンジンがかかります。始動グリップは図の方向に引いて下さい。

・ワイヤを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。

・運転中はスタータワイヤを引かないで下さい。エンジンに悪影響をあたえます。

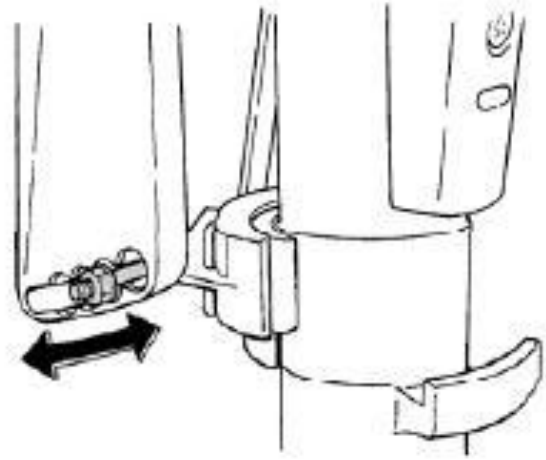


蝶ボルト（ハンドル重さ調整）

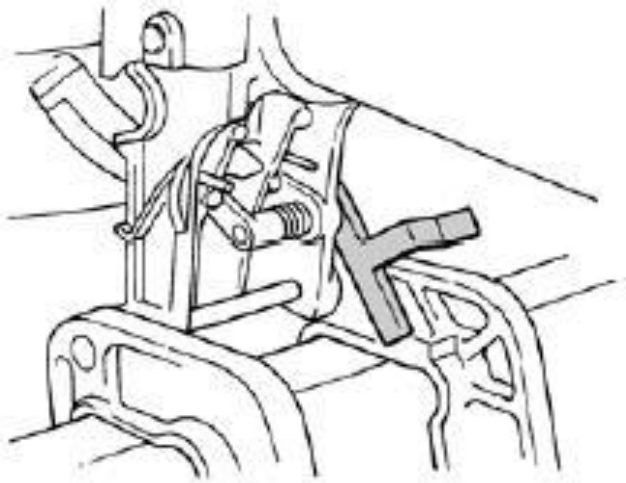
ハンドルの重さはスイベル　ケースの蝶ボルトを回転させることにより、調整できます。
時計回り：重くしたいとき
反時計回り：軽くしたいとき

警告！

蝶ボルトの締めすぎに十分ご注意ください、締めすぎはハンドル操縦が利かなくなる恐れがあるので、くれぐれにご注意ください。



調整ロッド
航走姿勢が適正になるよう調整するときに使用します。



取り付け角度（角度の調整）

船外機を適正な角度に固定できるよう、角度調整レバーをクランプ　ブラケットにロックしてください。

注意！

ボートを停止してから取り付け角度の再調整を行ってください。前進中の調整はボートにバランスを崩される恐れがあるので、ご注意ください。

船 外 機 の 正 し い 取 付 け か た

船外機を正しく取付けませんと、脱落したり、直進性を失ったり、スピードが出なかったり、水をかぶったり、燃料消費量が多くなったりします。船外機の取付けは正しく行ってください。

適応ボート

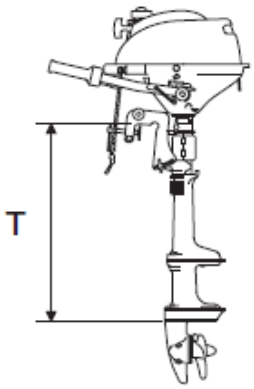
エンジン出力に適応するボートをお選びください。一般にはボートに推奨馬力が表示されています。

⚠警告

エンジンの出力に合わせてボートを選定してください。指定出力を超えるエンジンを搭載すると、操縦が不安定になり転覆する危険があります。

トランサム長さ

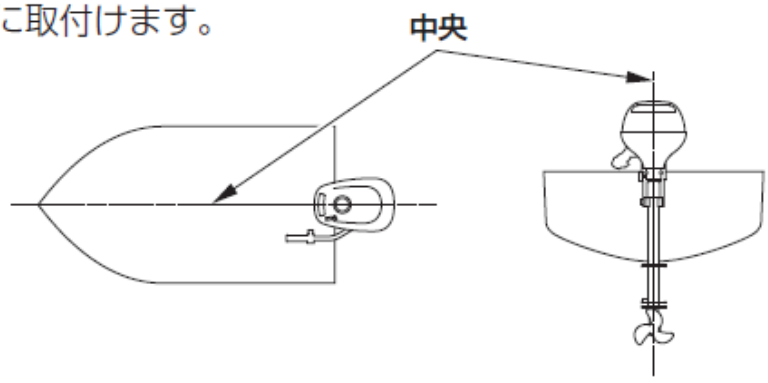
船(ボート)のトランサム高さに合わせて船外機を選びます。（図はＬタイプ）



タイプ	T (トランサム角5°時)
S	418 mm
L	571 mm

取付け位置

船尾の船幅中央に取付けます。

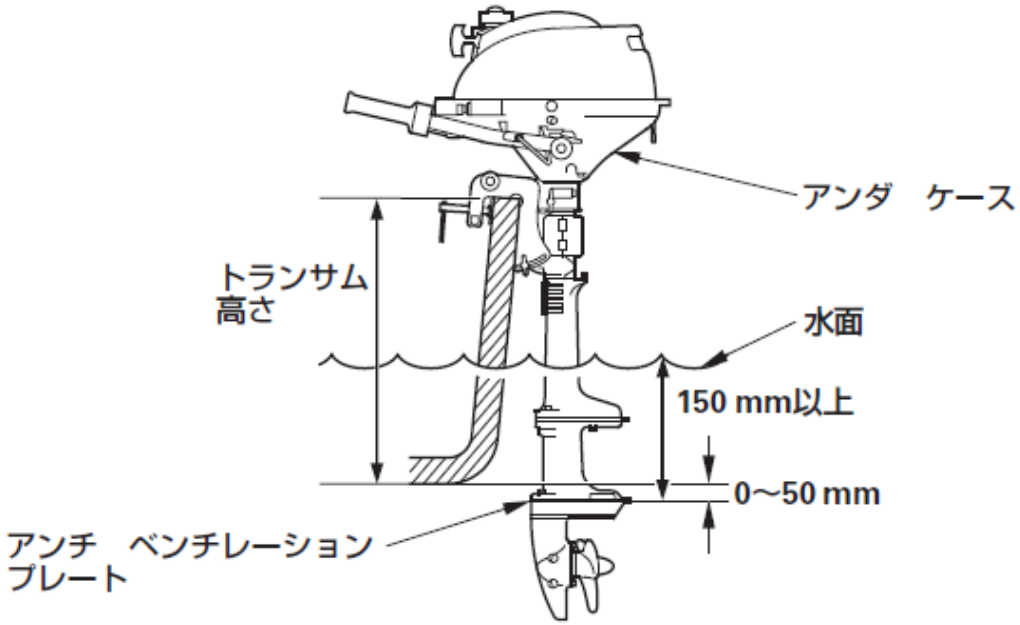


取付け高さ

ボートのトランサム上端から船底までの距離をトランサム高さといいます。
ボートに乗船した状態で、水面からアンチ　ベンチレーション　プレートまでの寸法を150mm以上にし、またアンチ　ベンチレーション　プレートが船底の延長線に対し下記の寸法になるようにボートのトランサム高さを調整してください。

標準寸法：　0～50 mm（船底の延長線から－**50 mm**以内）

ボートの種類や船底の形状などにより、取付け高さが変わります。ボート　メーカーの推奨取付け高さに合わせ、試走して最良の取付け高さを決めてください。



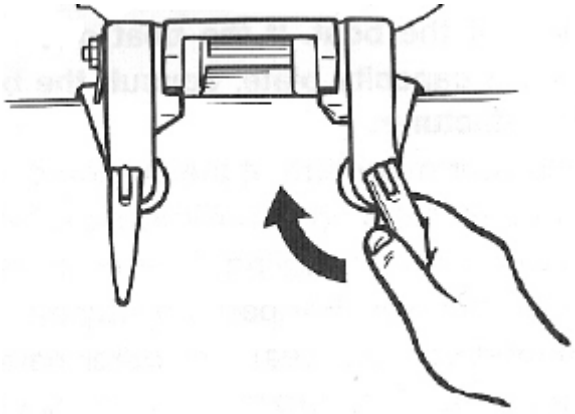
船外機の取付けが高すぎる場合は、高い波や旋回時にベンチレーションを起こし、スムーズな航走ができなくなります。

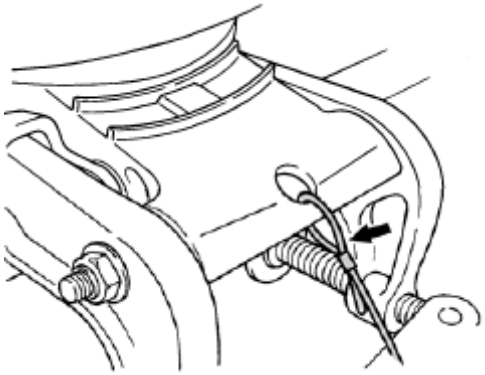
取扱いのポイント

船外機の取付け位置が極端に低いと、エンジン　アンダー　ケース内に水が侵入して悪影響を与える場合があります。取付けにあたっては、最大積載状態でエンジンを停止したときエンジン　アンダー　ケースに波、しぶき等がかからないように水面から十分高い位置にあることを確かめてください。

取付けかた

クランプ　ブラケットをトランサム　ボード(船の取付け板)にはめ、運転中にゆるまないようにクランプ　ハンドルをしっかり締付けてください。
クランプ　ブラケットにロープを結び、一方を必ず船体に結んでください。





⚠注意

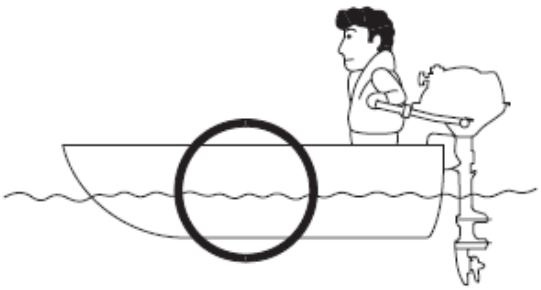
クランプ　ハンドルは確実に締付けてください。締付けがゆるいと船外機を水中に落とすおそれがあります。動力を失ったボートは操縦が不能になり危険です。

取付け角度(角度の調整)

⚠警告

取付け角度が適正でないと、操縦性や安定性が悪くなり、事故につながる可能性があります。操縦性や安定性に異常を感じたら、ボートを停止して取付け角度の再調整を行ってください。

船が航走しているとき、船外機のアンチベンチレーション　プレートが水面と平行になるように取付けてください。



へさきが上がり、へさきが極端に振られる。

へさきが沈み、波が異常にたち、水をかぶります。

お出かけ前の点検（出航前点検）をしましょう

本機は 2 ストローク水冷エンジンです。使用燃料は 2 ストローク専用無鉛混合ガソリンです。お出かけ前には、つぎの点検を必ず行ってください。

燃料の点検

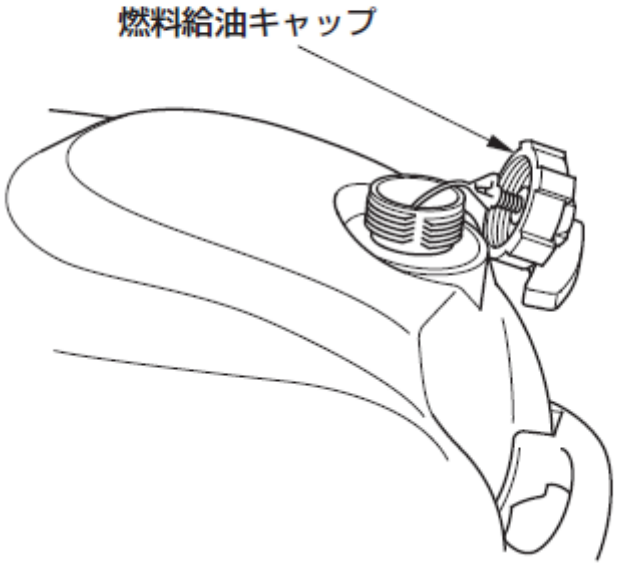
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすことがあります。
ガソリンを補給するときは

- 火気を近付けないでください。
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンを注入口の口元まで入れないでください。タンク内の空気やガソリンが膨張して、燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。布を閉じられた部屋に保管しておくと、ガソリンが気化し引火するおそれがあります。

〈点　検〉

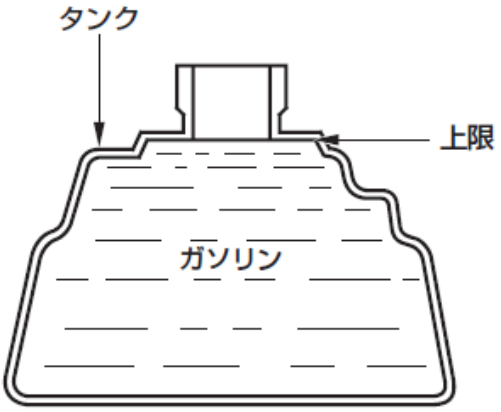
燃料の量は、燃料給油キャップを外し、燃料があるか点検します。



＜補給のしかた＞

使用燃料:　無鉛 2 ストローク専用混合ガソリン

タンク容量:1．5L



通気ノブをまわして燃料給油キャップを外します。補給は燃料をこぼさないようにゆっくり燃料タンクの上限まで補給してください。

取扱いのポイント

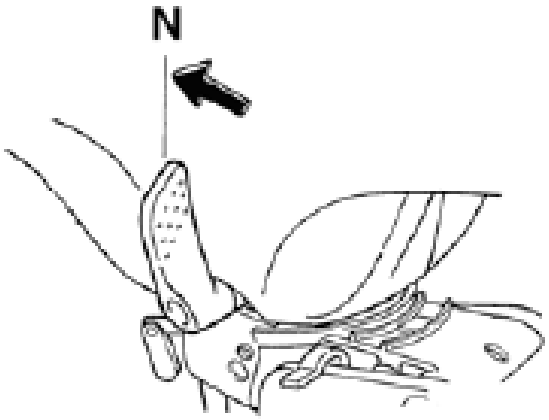
- 水や不純物が混ざっていない、新しいガソリンを使用してください。
  ガソリンは自然劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。
  劣化したガソリンを使用するとエンジン故障の原因となります。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

その他の点検

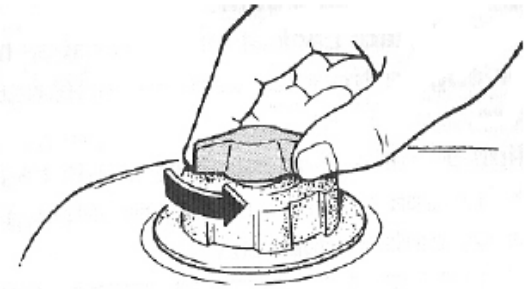
安全な運転をしていただくために、つぎのことも忘れず点検してください。

①・　プロペラ、シャー　ピン、割ピンの損傷、取付状態
②・　ハンドルのゆるみ、がた、操作具合
③・　クランプ　ブラケットの損傷
④・　アノード　メタルの損傷、腐食、がた

エ ン ジ ン か け 及 び 操 作 の し か た

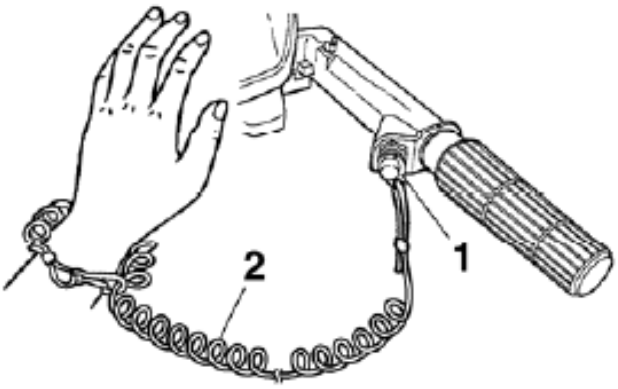


1．ギア　シフトを空回り（N）位置にする。
急発進を防止できます。エンジンかける前は空回り位置にしてください。
また船酔いするときなども、この位置にして、安全運転を心掛けてください。

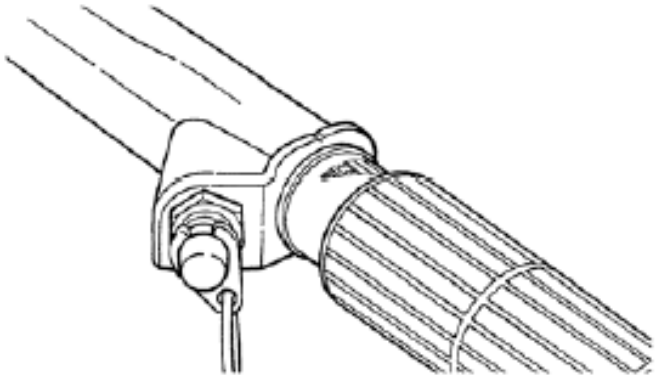


2．通気ノブを1回転まわし通気させます。

3．燃料コックを開けます。
警告：エンジンをかける前に、まわりに水泳者や障害物の有無を確認してください。

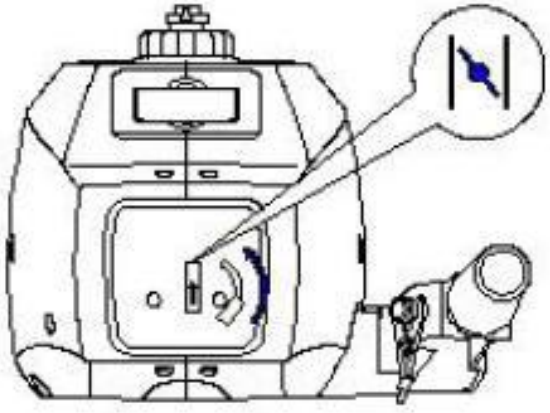


4．非常停止スイッチにコードを取付ける
1．クリップ
2．カール　コード
カール　コードを運転者の身体の一部にしっかりと取り付けておいてください。



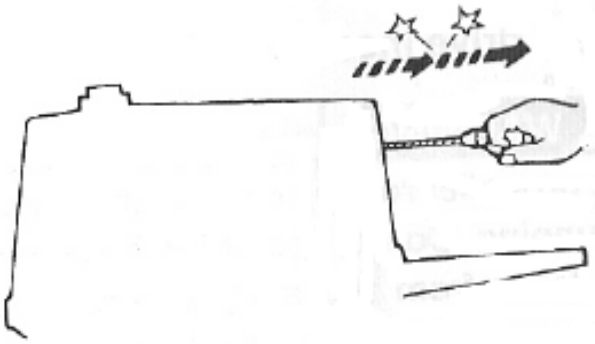
5. スロットル　グリップをスタート（始動）の位置にします。

警告：スロットル　グリップは、必ず始動の位置にしてください。位置を誤って（高速）位置にすると、エンジン始動後、エンジン回転が上がりすぎ、船が飛び出すおそれがあります。



6. チョーク　ノブ

ノブを反時計回りし、燃料をキャブレターへ流れ込み、エンジンをスタートし、エンジン回転が安定するのを確認しながらノブの位置を必ず元に戻してください。



7. エンジンをスタートする

・まず始動グリップを軽く引き、重くと感じたところで一旦止め。始動グリップを一度戻してグリップを勢いよく引くとエンジンがかかります。始動グリップは図の方向に引いて下さい。

・ワイヤを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。

・運転中はスタータワイヤを引かないで下さい。エンジンに悪影響をあたえます。

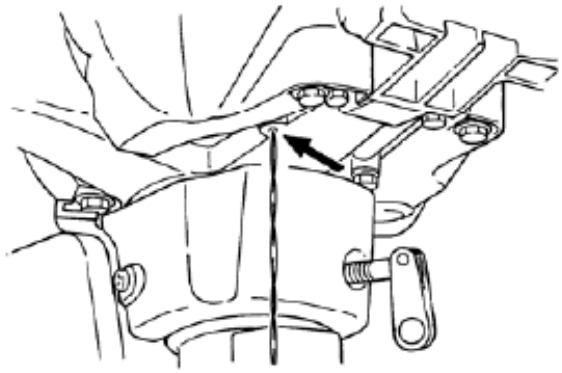
注意！

・エンジンが 4～5 回かけても、かからない場合は、スロットル　グリップを少し開けて（1/8～1/4 程度）再かけてみてください。

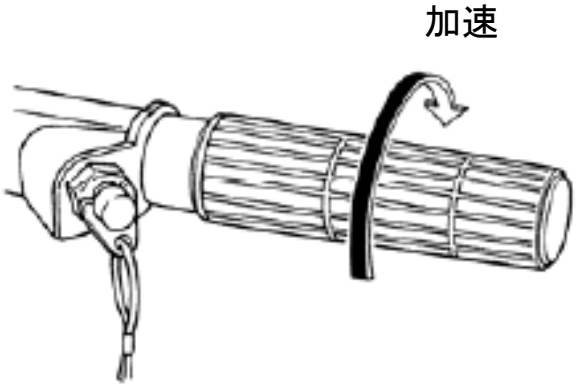
または次の点を確かめください：・燃料は足りてますか？　・通気ノブを開いていますか？　・点火プラグは汚れ、濡れていませんか？

注意！

① エンジンかかった後、安定回転を確認しながら、2～3 分ぐらい暖機させてから、スロットル　グリップをゆっくり加速し始めください。温度が－5 度、またはそれ以下の場合は、チョークノブを約 30 秒ぐらい開けたままエンジンを回転させてください。



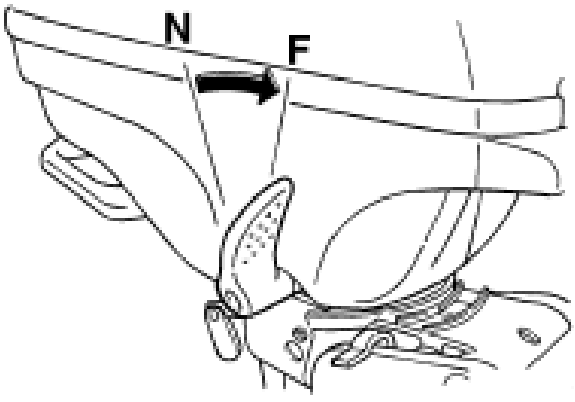
②水冷水が継続的に流れ出しているかを確認。水が継続的に流れ出ない場合は、排出口がホコリでふさがれているかを確認してください。水が継続的に流れ出さないと、エンジンが過熱になり、焼損するおそれがあります。必ずご確認ください。



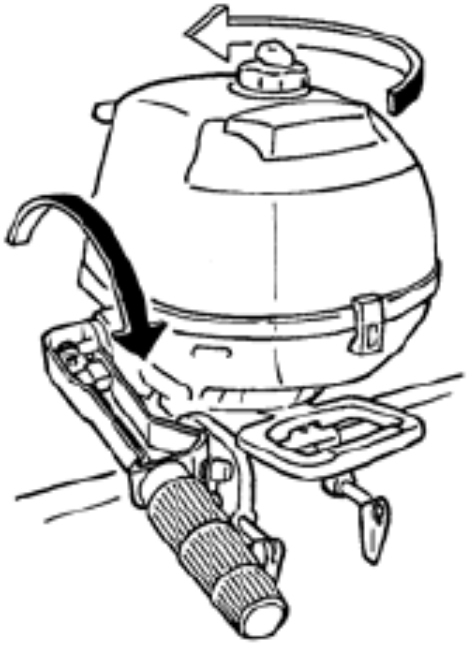
8. ボートを前進させる

警告：エンジンをかける前に、まわりに水泳者や障害物の有無を確認してください。

（1）. スロットルを始動位置にする。
図のやじるし方向へスロットルを回せば、エンジンは加速します。ボートの前進方向を変えるときも、スピードを落としてから曲がってください。



（2）. ギア　シフト　レバーをすばやくF（前進）位置へ回し。ボートは前進し始めます。



（3）. ボート前進方向を変更する

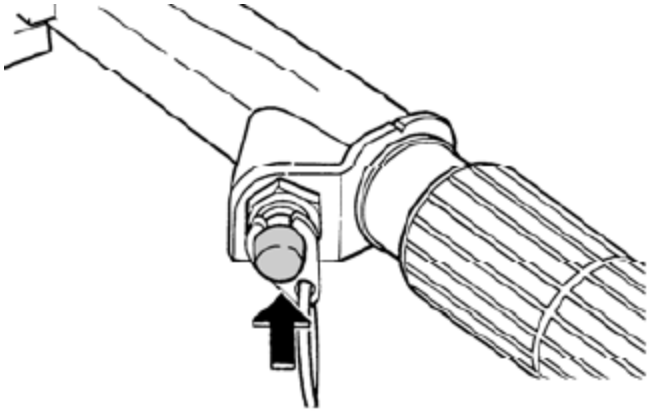
ティラー　ハンドルで船外機の姿勢を整え、方向は船首に向かってください。

船外機は360°　回転できます。（前回転軸システム）

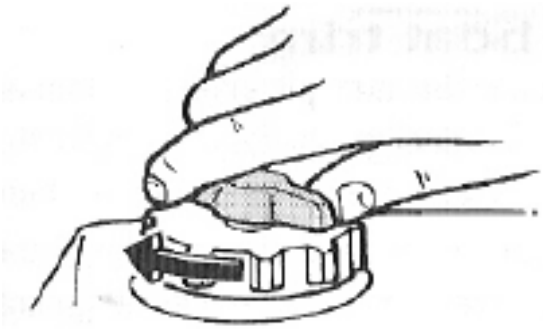
エ ン ジ ン 止 め 及 び 操 作 の し か た

注意！

エンジンをストップする前に 2～3 分かけて、低スピードで空回しさせ、温度を下げさせます。高スピードでエンジンを回転させた後、急に停止すると、十分に冷却できず故障する恐れがあります。



1. エンジンが停止するまで、エンジンストップボタンを押しつつけます。
ポイント：万一スイッチを押し続けても止まらない場合は、燃料コック　レバーを’停止’にし、チョークノブを引いて止めてください。

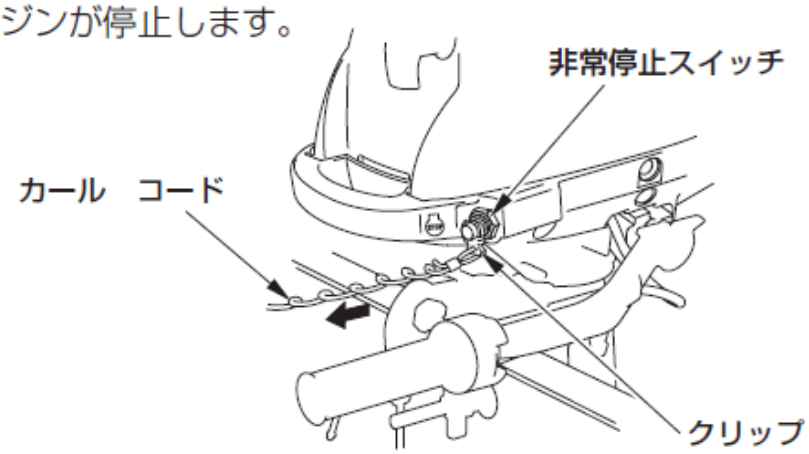


2. エンジンが停止した後、通気ノブを止まるまで締めてください。

3. 燃料コック　レバーを停止位置にする。

緊急停止の場合

非常停止スイッチのカール　コードを引き、非常停止スイッチ　クリップが引き抜かれるとエンジンが停止します。



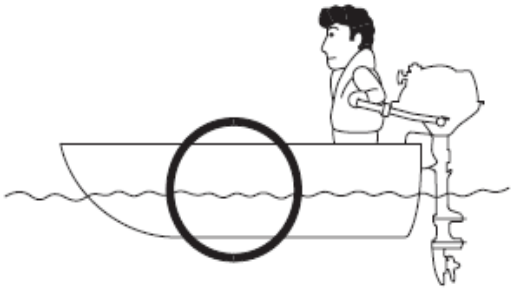
船　外　機　取　付　角　度　の　調　整

取付け角度(角度の調整)

⚠警告

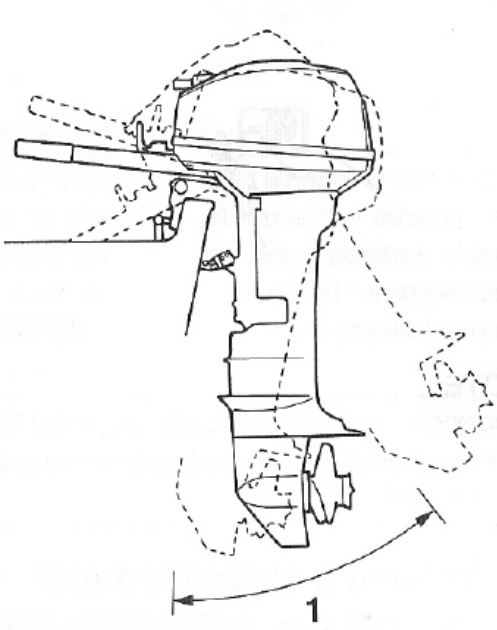
取付け角度が適正でないと、操縦性や安定性が悪くなり、事故につながる可能性があります。操縦性や安定性に異常を感じたら、ボートを停止して取付け角度の再調整を行ってください。

船が航走しているとき、船外機のアンチベンチレーション　プレートが水面と平行になるように取付けてください。

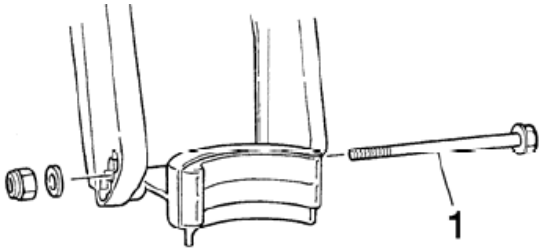


へさきが上がり、へさきが極端に振られる。

へさきが沈み、波が異常にたち、水をかぶります。



取付角度を調整するにはクランプ　ブラケットにある4 または 5 段調整ロットで調整できます。



＜調整のしかた＞

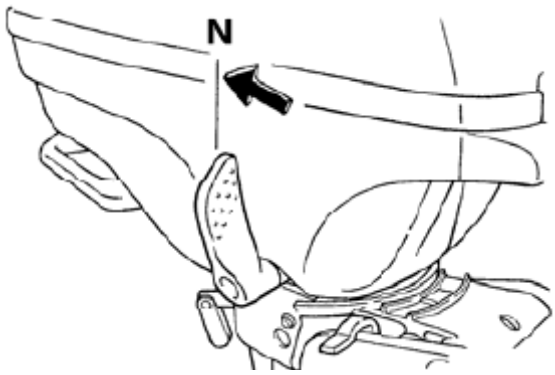
1．エンジンをストップする。
2．船外機を安定した姿勢に置きます
3．調整ロッドのナットをゆるめて、固定ワッシャ、調整ロッドの頭をクランプ　ブラケットの穴から引き出します。

4．スラスト　レシーバを動かして、船外機が垂直になるような位置で止め、固定ワッシャ、調整ロッドの頭をクランプ　ブラケットの穴に押し込みます。

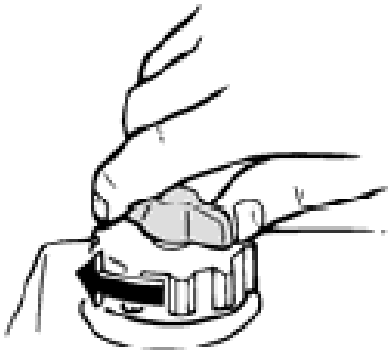
5．ナットを確実に取りつけます。調整後、固定ワッシャ、調整ロッドの頭が確実にクランプ　ブラケットの穴に入っているか確認してください。

＜チルト　アップのしかた＞

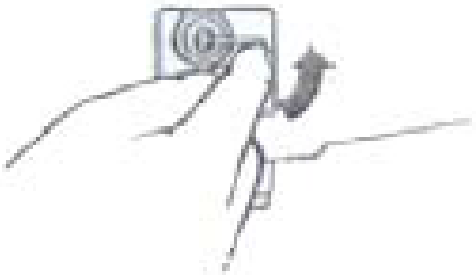
　エンジンを停止し、つぎに使用するまでの間、浅瀬に係留するときなど、岩や引き潮により、プロペラ、ギヤ、ケースを破損することがありますので、エンジンを傾斜させ（チルト　アップ）、プロペラを水面より上げておきます。



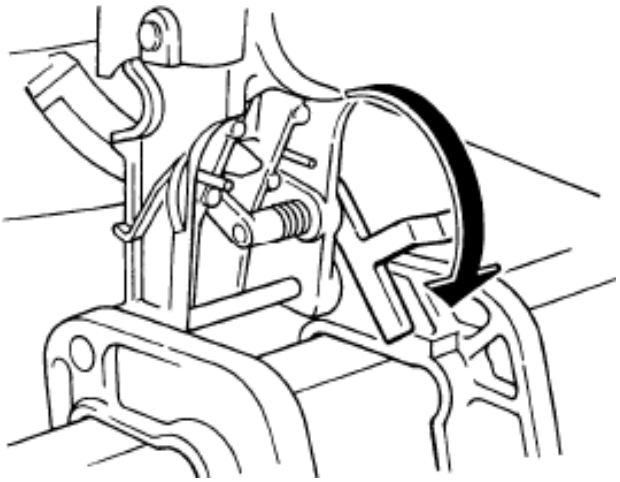
1．ギア　シフト　レバーを空回り位置にし、エンジンを停止させます。



2．通気ノブをしっかり締めまあす。



3. 燃料コックを閉めます。

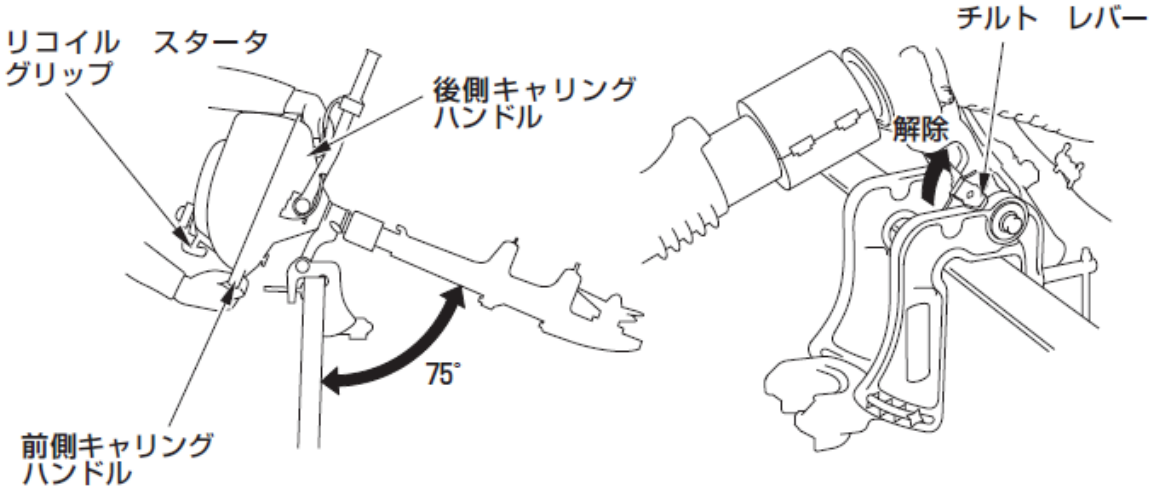


4. リコイル　スタータ　グリップを下側にして前後のキャンリング　ハンドルを持ち、チルト　レバーがカチッと音をたてて固定されるまで、機体を持ち上げます。

取扱いのポイント

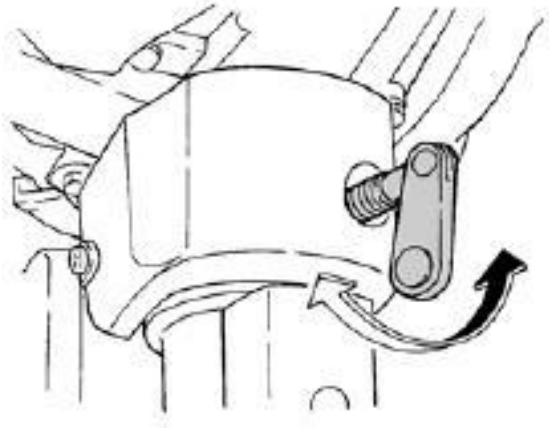
- ハンドルやエンジン　カバーを持って、チルト　アップを行わないでください。
- 指定以外の方向でチルト　アップすると、エンジン　オイルがもれたり、燃焼室内に入りエンジンが不調になるおそれがあります。

使用状態にするときは、後側キャリング　ハンドルを持ち、機体を一旦持ち上げてからチルト　レバーを解除し、静かに降ろしてください。



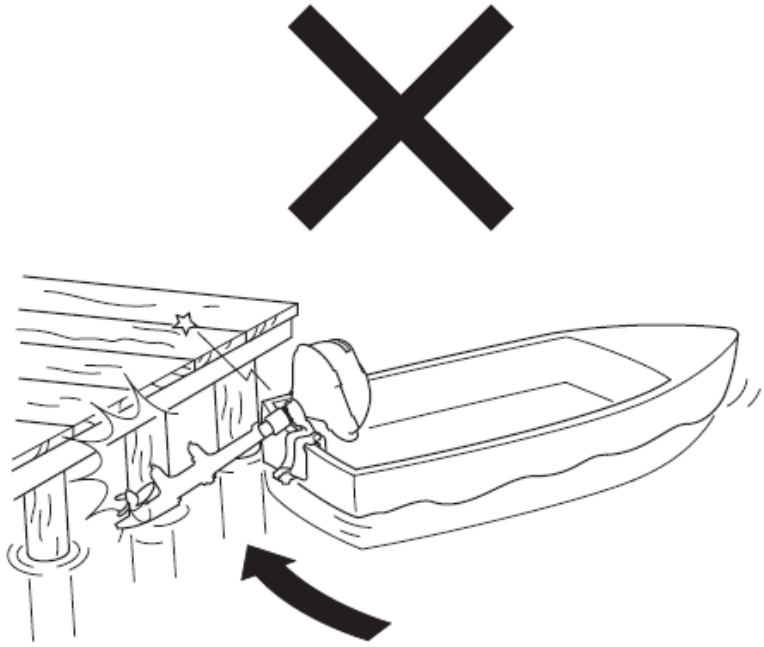
船外機が自由に回転しないように、蝶ボルト(ハンドル重さ調整ボルト)を締付けます。

重くしたいとき
→右にまわす　(時計方向)
軽くしたいとき
→左にまわす(反時計方向)



取扱いのポイント

係留時、チルト　アップした状態で、船外機を桟橋や他船等に衝突させないよう注意してください。



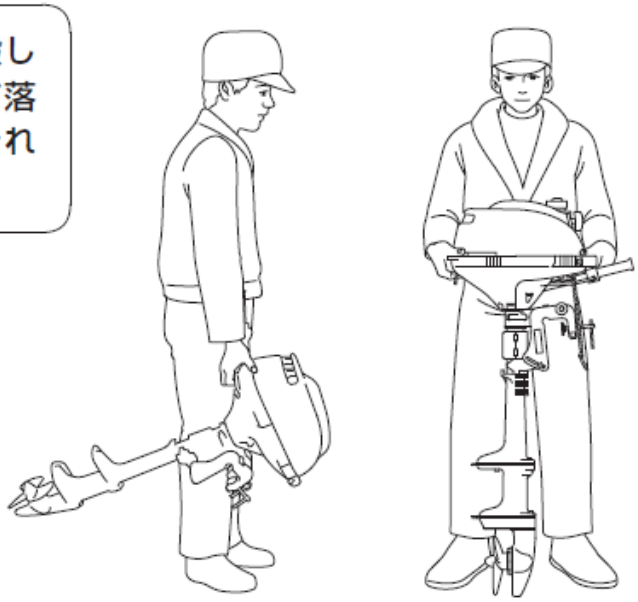
運　搬　の　し　か　た

船外機を運搬するときは、必ずキャブレータ内の燃料を抜いてください。
(58頁参照)

• 持ち運びするときは、キャリング　ハンドルを持って行ってください。

⚠注意

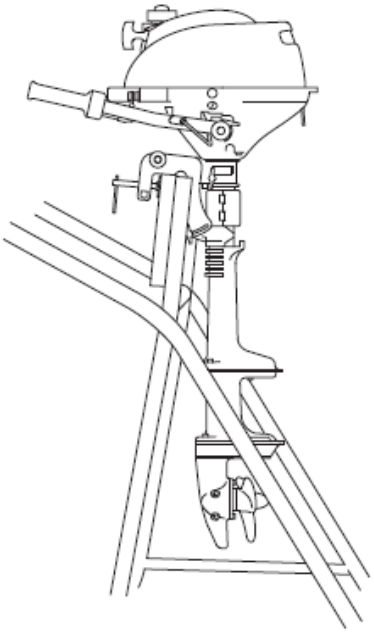
エンジン　カバーを持って運搬しないでください。カバーが外れて落下すると思わぬけがをするおそれがあります。



●船体から船外機を外した状態で、車に積んで運搬・保管を行なう場合

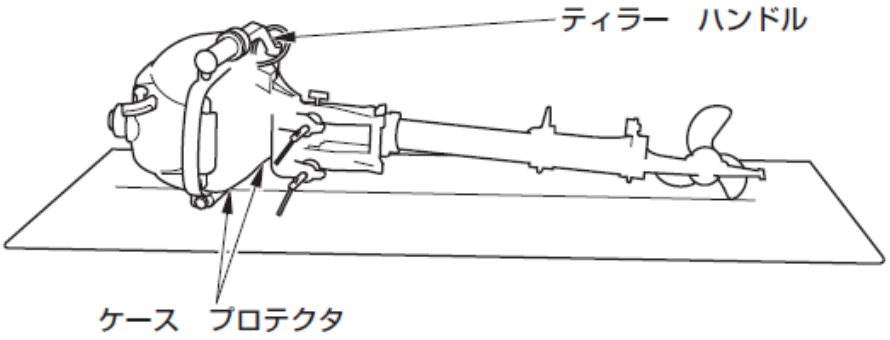
• 立てた状態での運搬・保管

立てた状態での運搬・保管はスタンド等を使用して右図のように行ってください。



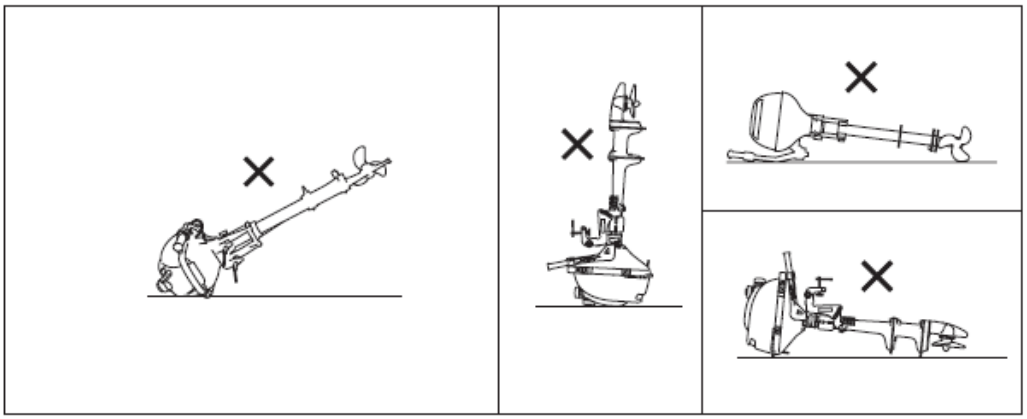
• 倒した状態での運搬･保管

横置状態での運搬･保管は、ケース　プロテクタを下側にして(ティラー　ハンドルが上になるように)、ウレタンフォームや毛布などを船外機の下に敷いて損傷を受けないようにします。

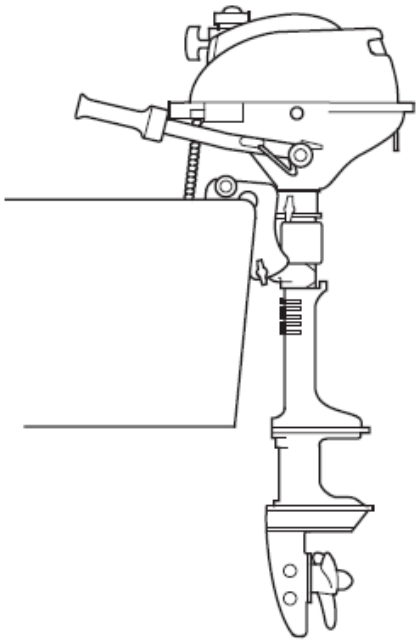


取扱いのポイント

オイルが多い場合や下図のような状態で運搬、保管はしないでください。オイル漏れの原因になります。
誤った取扱いをすると正規横置き状態に戻しても、オイルが漏れる場合があります。



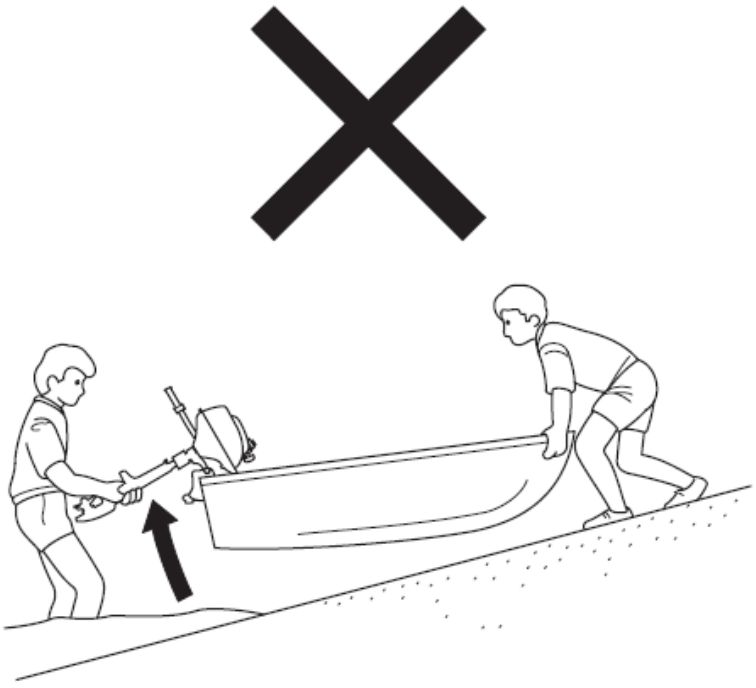
●船体に船外機を取付けた状態で運搬を行なう場合



• トレーラー運搬時の注意
船外機を船体に取付けた状態で運搬するときは、通常の航走状態で運搬してください。その際、船外機が自由に回転しないように蝶ボルト(ハンドル重さ調整ボルト)を締付けてください。
この状態で路面からの間隔が十分とれない場合は、チルト　アップして、船外機が動かないように確実に**チルト　セーバー**(市販品)などでしっかり固定してください。

取扱いのポイント

船外機を船体に取付けて運ぶときは、船外機を持たないでください。



定　期　点　検　を　行　い　ま　し　ょ　う

お買いあげいただきました HAIGE 船外機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

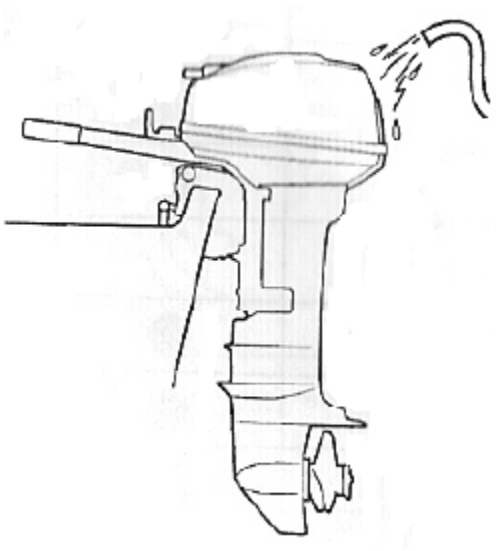
定期点検整備項目

点検項目 ＼ 点検時期（3）		作業前	初回 1ケ月又は 10時間 運転毎	6ケ月毎 又は 50時間 運転毎	1年毎 又は 150時間 運転毎
エンジン　オイル	点検	○			
	交換		○	○	
ギヤ　ケース　オイル	交換		○	○	
スタータ　ロープ	点検			○	
キャブレータ　リンク	点検ー調整		○(2)	○(2)	
タペット隙間	点検ー調整				○(2)
点火　プラグ	点検ー調整		○	○	
	交換	200時間運転毎			
プロペラ、割ピン	点検	○			
アノード	点検	○			
アイドル回転	点検ー調整		○(2)	○(2)	
各部の油脂及びグリース	塗布		○(1)	○(1)	
燃料タンク、タンク　フィルタ	清掃			○(2)	
クラッチ　シュー、アウタ	点検				○(2)
スイベルケース　ライナ、ブッシュ	交換	3年毎(2)			
ウォータ　シール	交換	3年毎(2)			
燃料チューブ	点検	○			
	交換	2年毎(必要時交換)(2)			
各部の締付け	点検、締付け		○(2)		○(2)
クランク　ケース　ブリーザ　チューブ	点検				○(2)
非常停止スイッチ	点検	○			

(1)海水の中で使用する時は頻繁に給油及びグリースを塗布ください。
(2)これらの項目は適切な工具と整備技術を必要とします

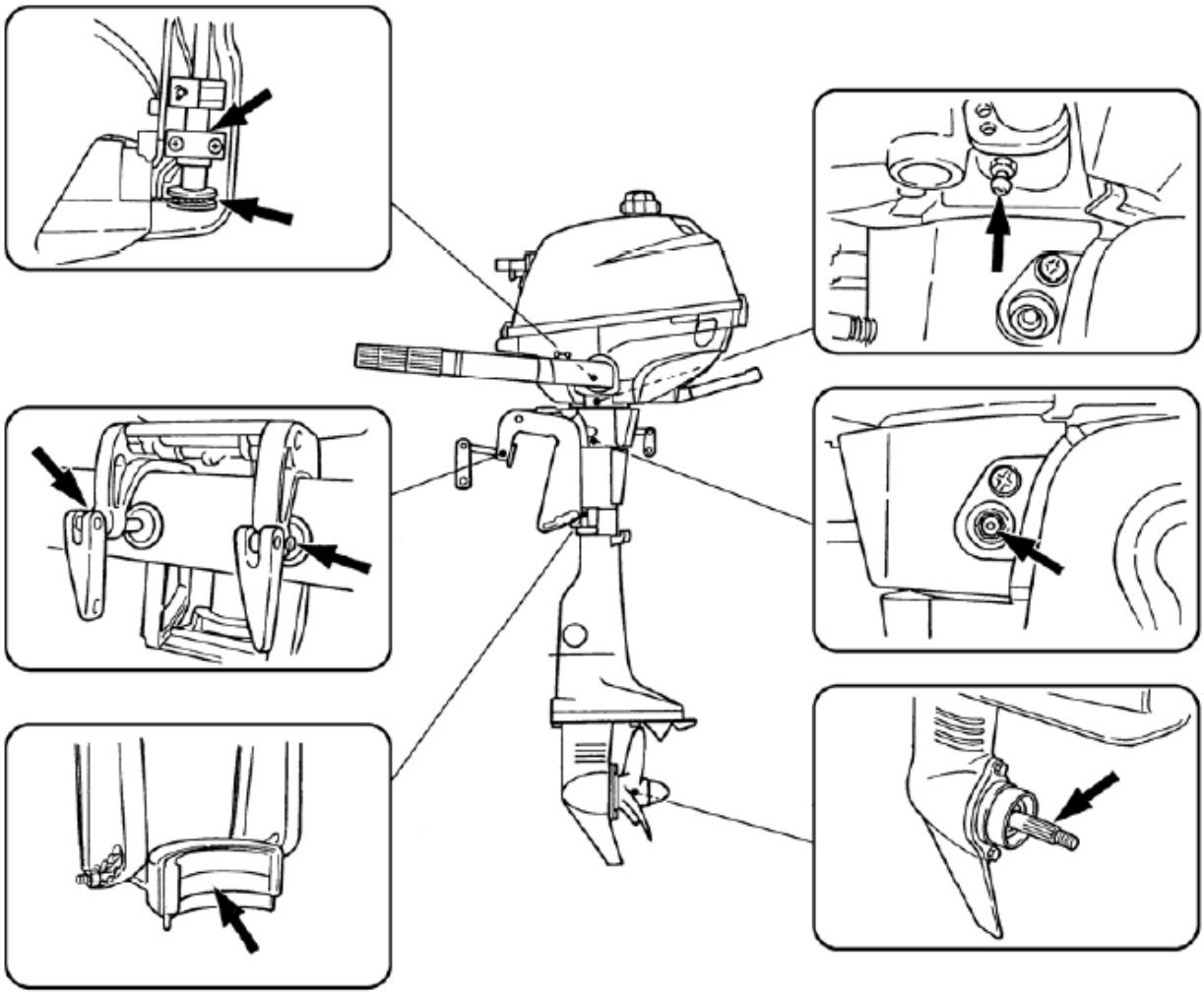
(3)点検時期はどちらか早い方で実施してください。

使　用　後　の　お　手　入　れ



1. 海水で使用した後、外装を真水で、ていねいに洗い、汚れ、塩分を落として下さい。その後、オイルを浸した布で外装を拭いてください。

2. 耐水グリース給油箇所
矢印←の部分に耐水グリースを塗布してください。プロペラ　シャフトのところに耐腐食グリースを塗布してください。



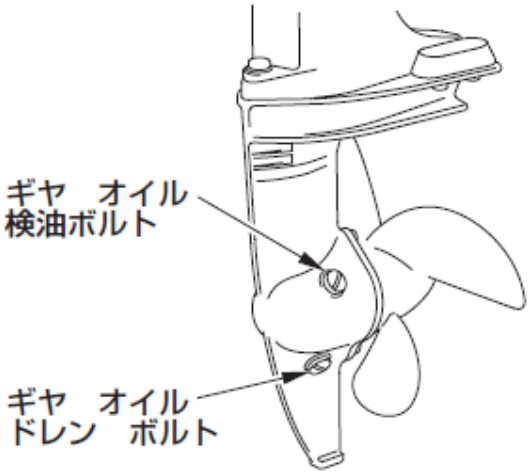
ギヤ　オイルの交換

ギヤ　オイルが不足していたり、汚れていると回転部分の寿命を著しく縮めます。

〈指定オイル〉API分類GL-4またはGL-5マルチパーパスSAE90番ギヤ　オイル

〈交換時期〉　初回：ご購入後１か月目または10時間運転時
以後：６か月毎または50時間運転毎

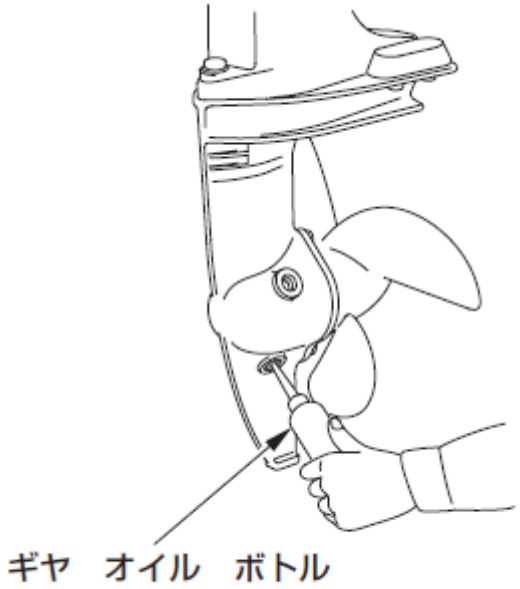
〈規定量〉　0.05 L



〈交換のしかた〉

1. オイル検油ボルト、オイル　ドレン　ボルトを外し、オイルを抜きます。
2. 新品のワッシャをオイル検油ボルト、ドレン　ボルトにセットしておきます。
3. オイル検油ボルト孔からオイルが流れ出るまでオイル　ドレン　ボルト孔からオイルを注入します。

●注油は、別売部品のギヤ　オイル　ボトルをご使用になりますと、より早く容易に行えます。



4. オイル検油ボルト、ドレン　ボルトをギヤケースに取り付け、規定トルクで締め付けます。
   規定トルク：
   3.4 N·m　{0.35 kgf·m}

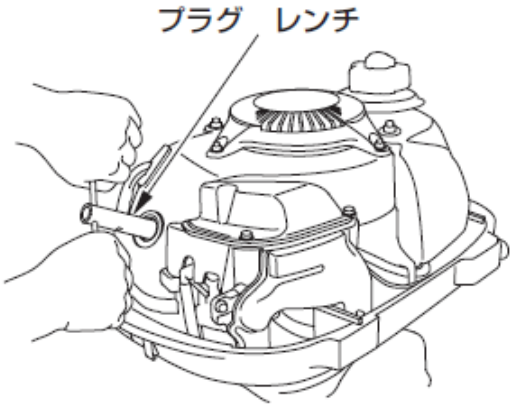
●ご自身で規定トルクが管理できないときは、お買い上げ販売店にご相談してください。

点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意

停止直後のエンジンは高温になっています。やけどをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗すると完全な火花が飛ばなくなります。



〈点検・調整時期〉

初回：ご購入後１か月目または10時間運転時
以降：６か月毎または50時間運転毎

〈交換時期〉

200時間運転毎

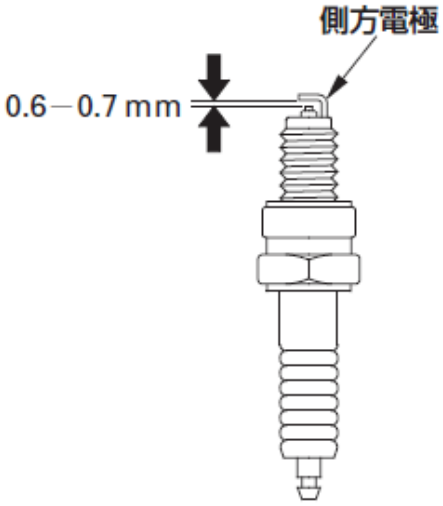
〈清掃のしかた〉

- エンジン　カバーを外し、プラグ　レンチで点火プラグを外します。
- プラグ　クリーナーで清掃します。プラグ　クリーナーがないときは、ワイヤーブラシ等で汚れを落としてください。

〈調整のしかた〉

側方電極を曲げ、火花すき間を下記の寸法に調整します。

適正すき間：0.6－0.7 mm



取扱いのポイント

- 点火プラグを組付けるときは、最初手で軽く一杯までねじ込んでからプラグレンチで締付けてください。
- 標準以外の点火プラグを使用しないでください。

プロペラの交換のしかた

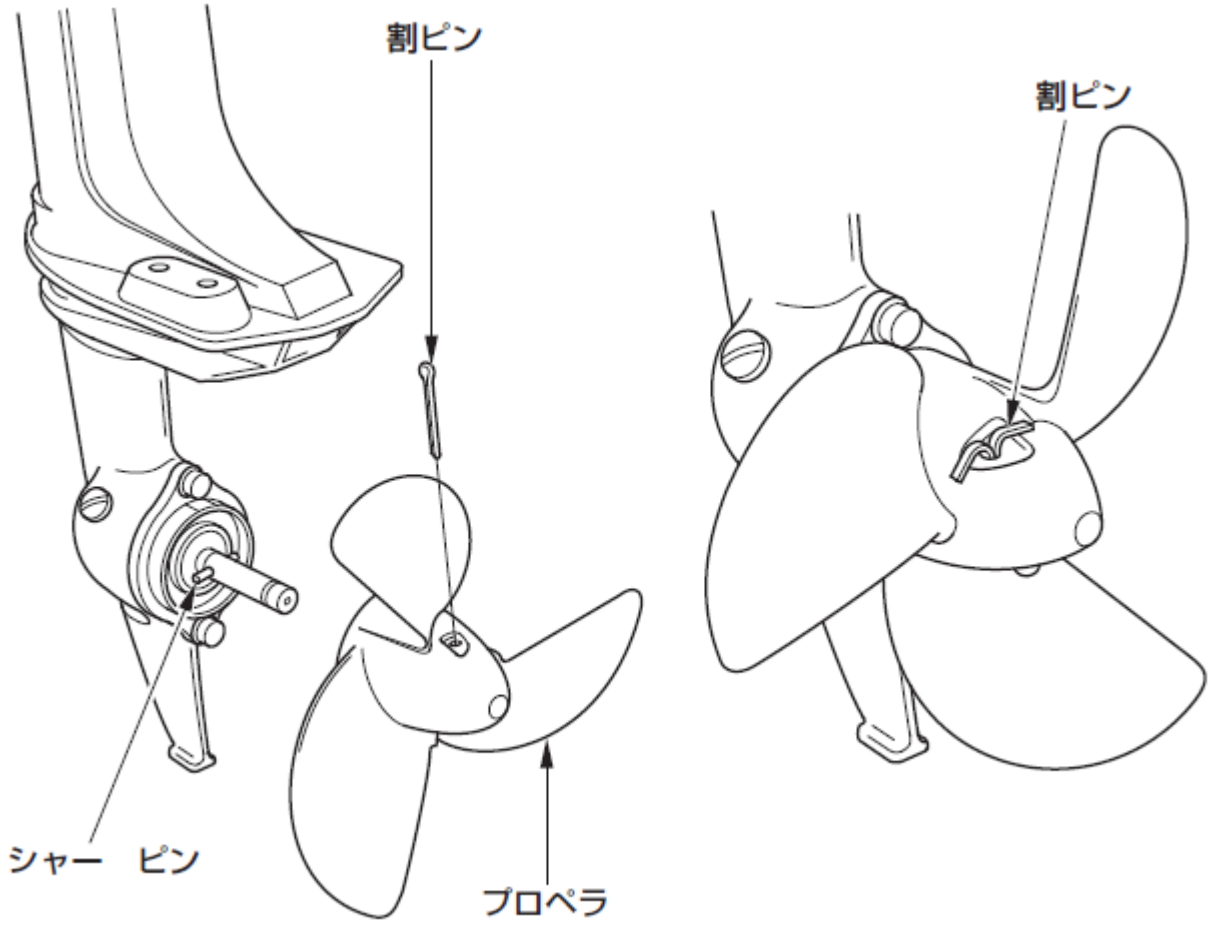
⚠警告

プロペラのブレードは薄く鋭利で不用意に取扱うとけがをするおそれがあります。プロペラを交換するときやブレードに付着した異物を除去するときは

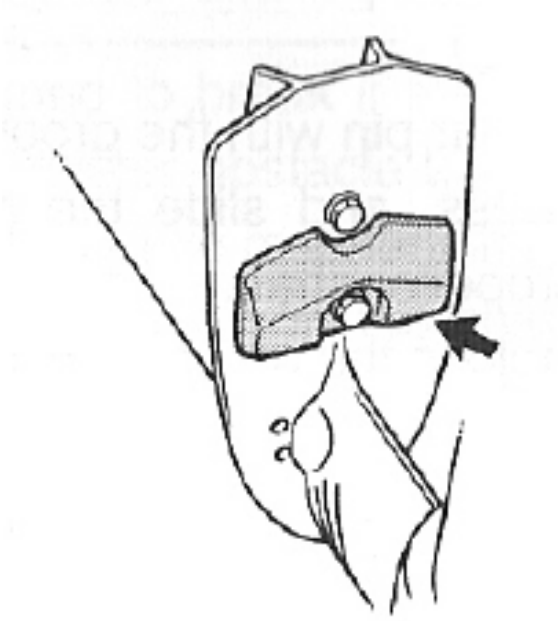
- エンジンが始動するのを防ぐために必ず非常停止スイッチのクリップを外しておいてください。
- 手袋等をして注意して行ってください。

損傷の著しいプロペラはつぎの手順で交換してください。

1. 割ピンを伸ばし、引き抜きます。
2. プロペラを取外します。
3. 取付けは逆の手順で行ってください。割ピンは新品と交換してください。
   シャー　ピンに曲がりや傷のある場合は新品と交換してください。



トップ　カウリング点検のしかた



警告！

カウリングが十分に締めつけていることを確認し、ギャップ無しのことを確認してください。ゆるみ、または適正ではない取り付けはエンジンに水を吸い込まれるおそれがあります。

両手でカウリングを押して、ゆるみがあるかを確認してください。

燃料の抜きかた

船外機から燃料を抜きます。ガソリンは自然劣化しますので必ず抜いてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすことがあります。

- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 換気のよい場所で行ってください。
- ガソリンをこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。

1. 燃料給油キャップを外して、燃料タンク内の燃料を抜きます。
2. 燃料コック　レバーを　運転　の位置にし、キャブレータ内とタンクに残った燃料を容器に受けます。
3. 完全に燃料が抜けたら、燃料コック　レバーを停止の位置にします。
4. 燃料給油キャップを取り付けます。

主　　要　　諸　　元

項　　目	仕　　様　　諸　　元
名称(型式)	HAIGE 船外機 HS-3HP
寸　　法 全　　長 全　　幅 全　　高	 620mm 220mm 432mm
乾　燥　重　量	17KG
定　格　出　力	3．5HP@4200－5300r/min
エンジンタイプ	2ストローク
シリンダ内径×行程	47×43
総　排　気　量	74．6CC
冷　却　方　式	エンジン全体水冷
始　動　方　式	リコイル　スタータ式
燃料タンク容量	1．5L
使　用　燃　料	2 ストローク専用混合ガソリン
操　縦　装　置	ティラー　ハンドル

※この主要諸元は予告なく変更することがあります。

ハイガー汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
ハイガー・HAIGE 産業株式会社
〒370-0614　群馬県邑楽郡邑楽町赤堀 2656
☎：0276-89-8605　　0276-89-8606
✉：support@haige.jp
URL：http://haige.my-store.jp/